

韓国環境部プレスリリース 2019年12月29日付

## 京畿道漣川郡野生いのしし弊死体からASFウイルス検出 (野生いのしし54例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=20&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1159025&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)百鶴面(ペッカシムン)で発見された野生いのしし弊死体でASFウイルスが検出されたと12月29日明らかにした。

弊死体は12月27日百鶴面(ペッカシムン)民間制限線内の山で農業従事者によって発見された。漣川郡(ヨンチョンゴン)はASF標準行動指針により現場を消毒して死体を処理した。

国立環境科学院は12月29日弊死体からASFウイルスが検出されたことを関係機関に通知した。漣川郡(ヨンチョンゴン)の野生いのししASF確定診断は18件となり、全国的には54件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の弊死体は2次フェンス内で発見され、この地域では感染弊死体がさらに出てくる可能性があるので捜索を継続してゆく予定である"と話した。

以上